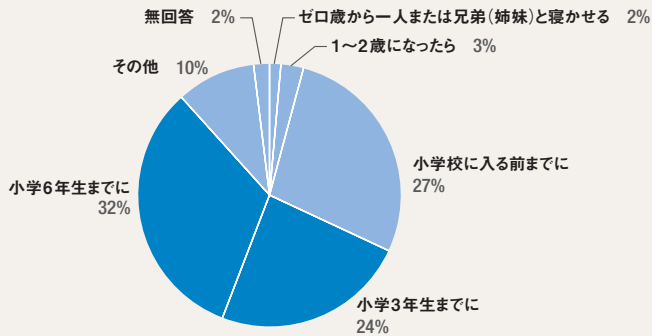


寝室は小学生のうちに別部屋に

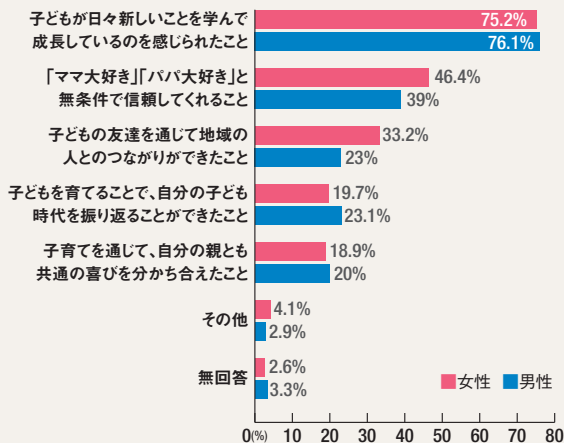
Q1 子どもが何歳になったら親と別部屋で寝かせたい(寝かせている)ですか。(一つだけ)



何歳から子どもを別部屋で寝かせるべきか…。これはご家庭の方針によって様々ですが、子どもの自立を目的として「小学生のうちに」とお考えの親御さんが多いようです。次に、「小学校に入る前までに」との回答が続きました。そのほか、「タイミングは子どもに任せる」という意見も。住環境により、別部屋が難しいという方もいるようです。

子どもの成長が一番の喜び!

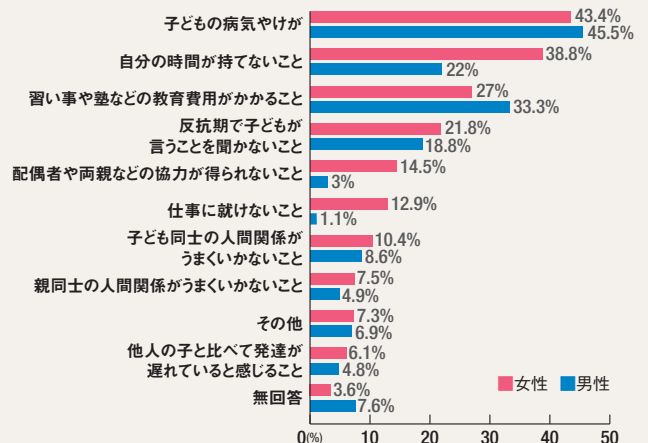
Q2 子育てをしていて、うれしい(うれしかった)ことは何ですか。(三つまで)



子育ての醍醐味はやはり子どもの成長を感じることに。男女共に他を引き離す結果です。これ以外に、子どもの友達を通じて地域内で交流を図れることに女性(母親)が満足感を得ていることに特徴が見られました。近所の保育施設などで、育児の悩みを相談し合ううちに良好な人間関係が生まれるのかもしれない。「子育てを通じて家族の関係がより深まった」という素敵なコメントも寄せられました。

病気やけがが心配……

Q3 子育てをしていて、辛い(辛かった)ことは何ですか。(三つまで)



子育ては楽しいことばかりではありません。時には辛く感じることもあります。子どもの命にかかわる病気やけがが一番の心配事ですね。女性(母親)は子どもと接する時間がどうしても長くなるので、自分の時間が持てないことや仕事に就けないことにストレスを感じる人が多いようです。一方、子どもが成長するにつれて必要となってくる養育費に男性がプレッシャーを感じている様子もグラフから読み取れます。

UR
[ユーアール・リサーチ]
RESEARCH

『UR PRESS』では、毎号特集に関連したアンケート調査を実施し、集計結果を誌面で発表します。vol.30は「子育て」がテーマ。

アンケート 3193人
回答者数 (男性:2605人、女性:588人)
調査方法 インターネット調査
実施機関 日経BPコンサルティング 2012年6月調査

編集後記

「ただ、伸行の喜ぶ顔が見たくって」——今回の特集、辻井いつ子さんの取材で出合った心に残る一言です。

親は子どものためなら、苦勞をいとわず、努力を惜しまず、大変なことを大変とも思わず、どんなことでも頑張れるものなのかもしれませ

ん。しかし、自分たちだけでは解決できないことがたくさんあるのもまた事実。そんな時、団地で、地域のコミュニティーで、そしてまち全体で支えられることは何か。

少子化が社会問題になっている昨今、本号ではUR都市機構が取り組む子育て支援

を特集し、ハード・ソフト両面から、時代の要請に応える団地の姿を取り上げました。少しでも皆さまの参考にしていただければ幸いです。

私たちがつくった生活空間で、皆さまに笑顔で暮らしていただけることを願っています。